

江戸時代にタイムスリップ

秋の皇居東御苑、江戸城跡を歩く

三井Vネット<ふれあい仲間づくり>

山岸弘明



太田道灌



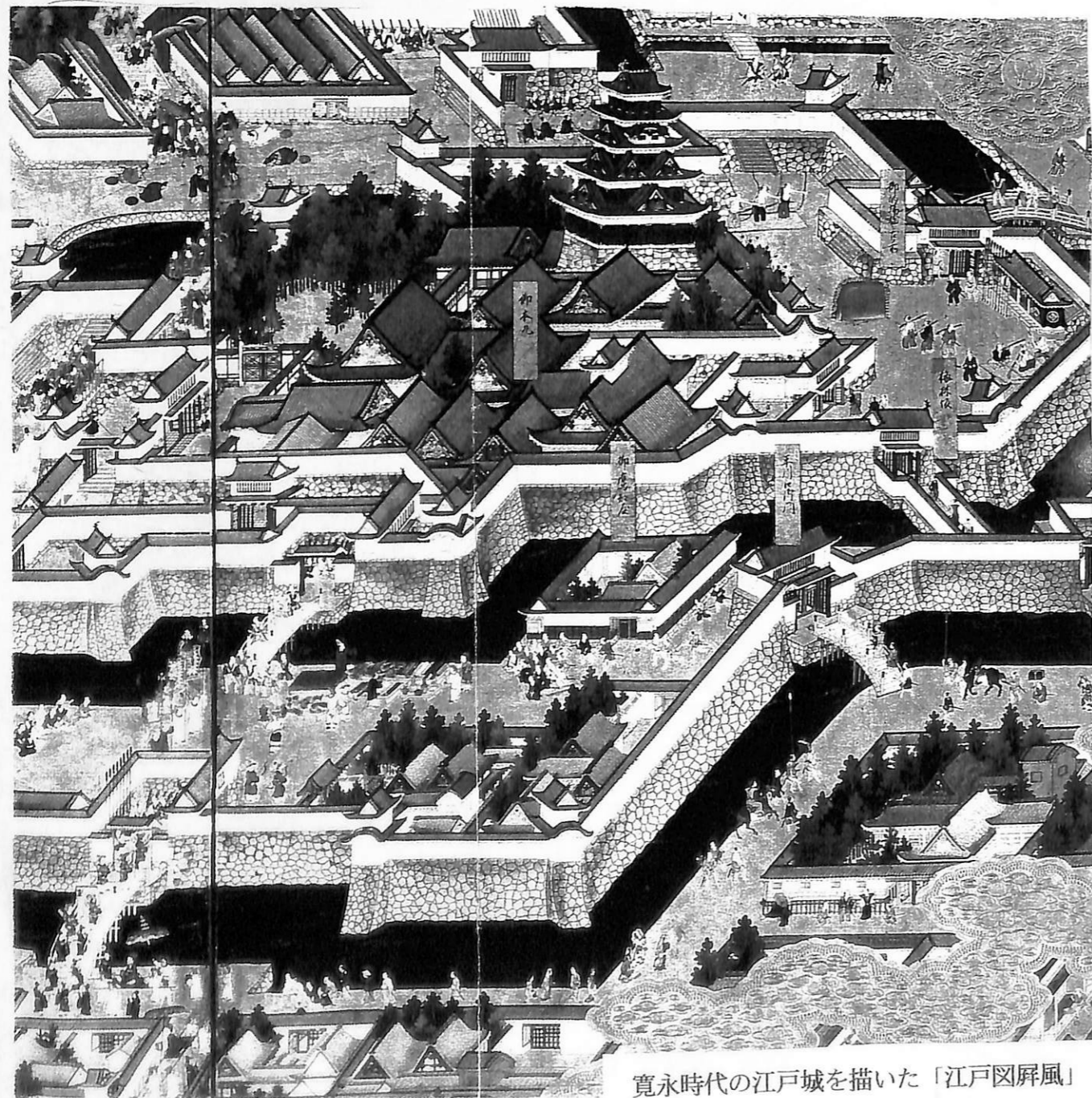
徳川家康



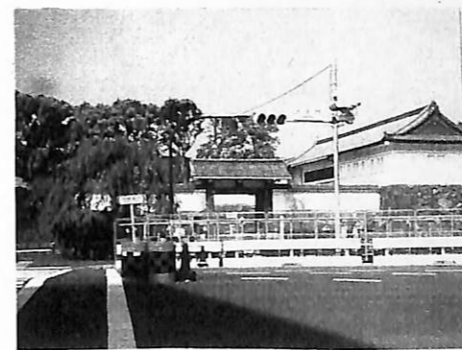
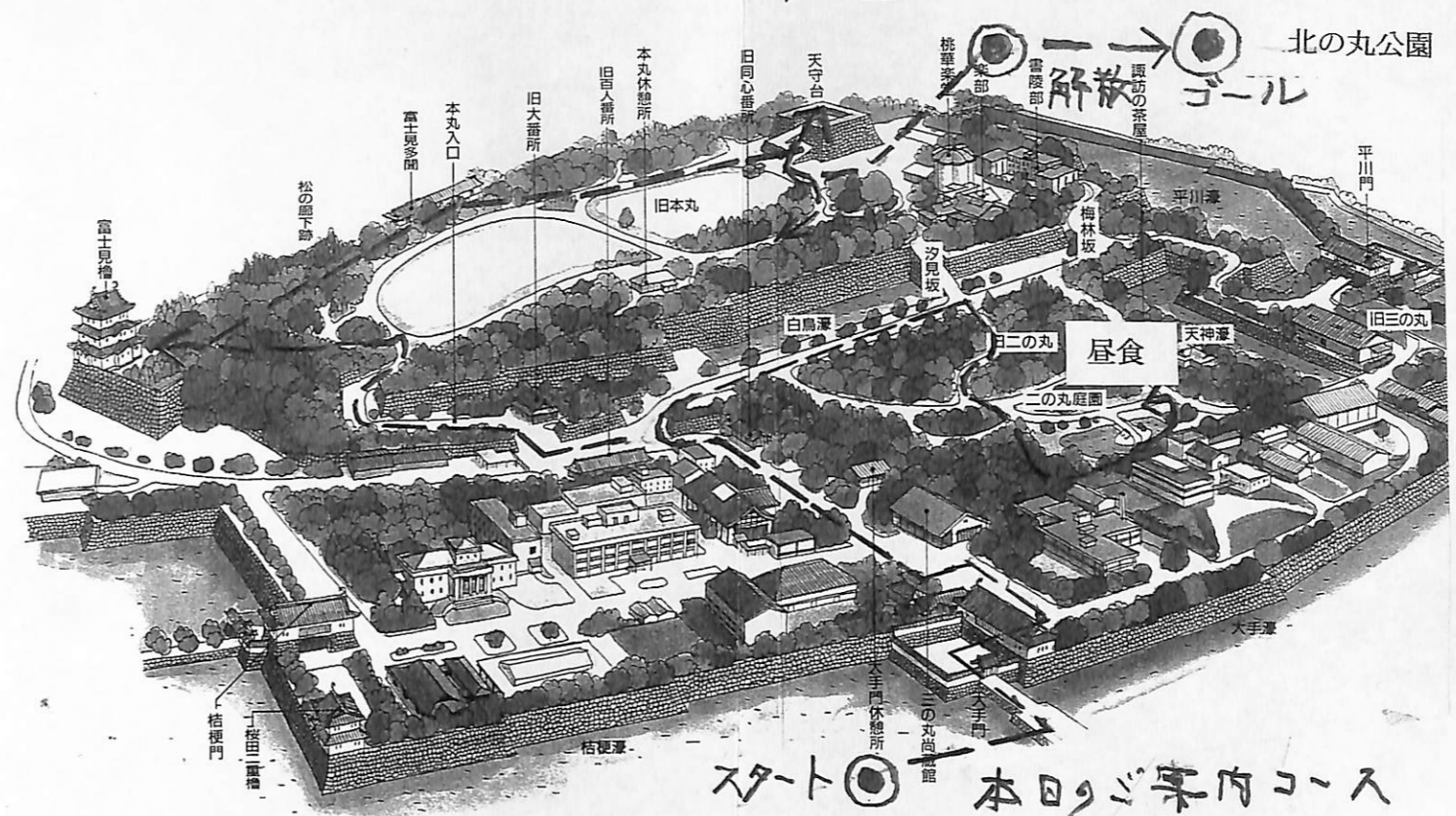
徳川秀忠



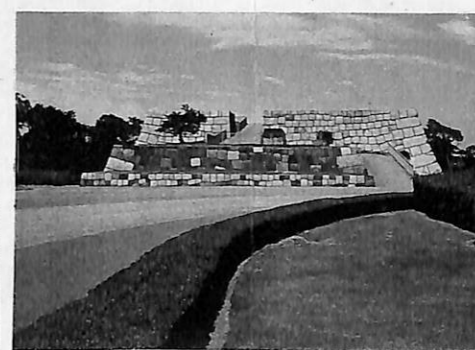
徳川家光



寛永時代の江戸城を描いた「江戸図屏風」



大手門



本丸



二の丸庭園

本日のキーポイント

- ① 徳川家康～慶喜、15将軍が君臨した日本一の大城郭
- ② 3つの顔を持つ巨城＝厳粛の大手、戦うからめ手、柔和な西の丸
- ③ 火事との戦い、本丸7回建造、天守閣4度めは立たず
- ④ 本丸大広間は将軍権威の演出場、上段の間から諸大名を謁見
- ⑤ 将軍の使命は種(しゅ)の保存、権謀渦巻く大奥ハーレム

みどころ＝現地で詳しく解説します

- ① 江戸城主郭囲む石垣と水濠からスタート
- ② 従者待合所＝1、15日は参勤中の全大名が集まる。登城ラッシュは？
- ③ 大手門＝高麗門、升形、渡櫓門。江戸城正門の守り、表の顔
- ④ 中の御門、書院前門＝巨石に圧倒される。大名気分で本丸めざす
- ⑤ 本丸御殿跡＝家康、秀忠、家光……歴代将軍が居住。いま洋風庭園
- ⑥ 松の大廊下跡＝元禄14年3月、ここで浅野長矩、吉良義央に刃傷
- ⑦ 天守閣跡＝総高80mダントツ日本最大。最後は台だけ、上物は作れず
- ⑧ 大奥跡＝興味深々謎多い大奥、建物と仕組みを時間限りで現地解説
- ⑨ 北はね門＝深い水濠と高石垣、からめ手は戦う城そのものだ

平成19-10-30(水曜日)

1) はじめに (地名の由来と江戸城の歴史)

- ① 江戸の地名=江は海、戸は入口。隅田川(旧利根川)が江戸(東京)湾にそそいだ地形から。
- ② 江戸城=徳川将軍家15代にわたる居城で江戸幕府政庁所在地。
前史=12世紀江戸重継が居館を設け、15世紀中ごろ太田道灌が築城、関東に武威を広げる。
近世(江戸時代)=天正18年(1590)徳川家康が豊臣秀吉の命で北条氏の旧領関東に転封し、江戸城を本拠とする。宿敵豊臣氏を関が原の戦いとその後の大坂の役で一掃、慶長8年(1603年)、晴れて江戸幕府を開く。家康は諸大名に手伝い普請として城下町整備を命じ、江戸城の増改築を実施、このとき本丸、2の丸、3の丸などの石垣工事と天守閣、政庁殿舎が、家光時代に総構え(外郭)が完成した。本丸周辺の主郭は10万坪、西の丸7万坪、吹上苑13万坪、外郭は現在の千代田区全域におよぶ全国最大の城郭であったが、明暦の大火で天守閣を焼失、幕末に本丸殿舎も焼いて本丸機能を西の丸に移した。
明治以降=明治元年(1868)開城、その中心部は皇居として今日におよんでいる。

2) 桔梗濠と周辺石垣(現存)

- ① 桔梗濠=桔梗御門↔大手御門の濠。内堀北側の終点。この先銀行会館の辰の口から道三濠に落ちた。
- ② 石垣=家康入城当時は麴町台地、田安台、江戸館周辺を水源とする小川? 関が原合戦後、慶長7年の第1次工事で水濠とし、慶長11、12年の第2次工事で本格的石垣に。その後積みなおしもあるが石組みはほぼ当時のままとされる。
- ③ 荒々しい石組みは当時流行の打ち込みハギ(後出)。石垣は直線に築かず、歪み、折れ、横矢とした。防御と石垣強度保持のため。

3) 大手町と従者待合所跡

- ① 大手町=明治以降の地名、旧江戸城大手郭。江戸時代は譜代重臣の上屋敷を配した。
- ② 酒井雅楽頭屋敷跡(三井物産周辺)=譜代大名最大の名門。姫路15万石。天正18年拝領、ほぼ一貫して邸地とした。歴代藩主中、忠世、忠清、忠積が大老。忠清の時4代将軍家綱を補佐し、その専権は大手下馬札前にちなんだ下馬將軍の異名で恐れられた。
- ③ 従者待合所跡=大手門前の広場は総登城日の諸大名従者待合所でもあった。毎月1、15日、1月1日、3月3日、5月5日などの式日は参勤大名の総登城日、登城ラッシュ。順番通り登城のため大名家は町角に係員配備、合図で待て、前進を繰り返した。
- ④ 大名にしたがって城内に入れる供わずか+カゴかつぎ、草履持ちなど3の丸下乗門まで。ほかは大名家ごとに敷物で待機。広い大手御門前も諸大名の従者で埋まった。

4) 大手御門(現存材復元)

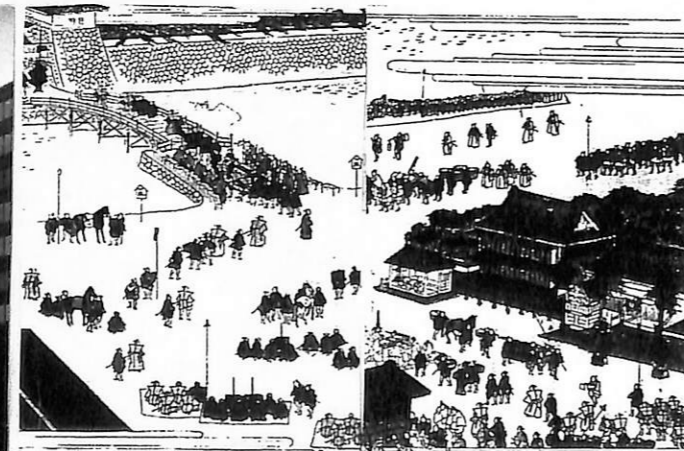
- ① 大手門は文字通り江戸城の正門。復元(一部現存材)された厳めしい門構えが将軍居城の権威を物語る。升形門構造を詳しく観察しよう。
- ② 元和6年伊達政宗造営。栄誉だが出費も莫大。黄金2,600枚、延べ42万人動員した。以降、数度の焼失をへて、江戸末期の建物は昭和20年戦災焼失、42年東御苑一般開放にあたり復元。
- ③ 土橋=江戸時代は橋台で濠水をセキ止め、中央に木橋。

- ④ 高麗門=本柱、支柱。コの字形、切妻屋根、本瓦葺き。門扉は江戸後期の現存。
 - ⑤ 枳形=桜田門と違う四方石垣、正式な形。周囲の石垣、白壁。ガンギ坂、銃座。
 - ⑥ シャチ=明暦3年の本物。瓦製。シャチは架空の聖獣。水に棲息して水を吹く。火除のまじない。
 - ⑦ 渡櫓門=両脇に石垣。2階に渡櫓(22×4間)。大入母屋屋根、本瓦葺き。鉄板張り大御門。大御門、巨大柱と梁などに注目。
 - ⑧ 大番所跡=平日60人、登城日100人。10万石譜代大名警固。明け6つ(日の出)開門、暮れ6つ(日没)閉門。緊急時はガンギ坂から渡櫓門へ。
 - ⑨ 内側は3の丸=3の丸御殿。綱吉生母桂昌院ら居住。現在は宮内庁病院など。
- 5) 皇居東御苑受付
ここからが東御苑。各自入場札を受領、出口で返却。なくさないこと。
- 6) 3の丸尚蔵庫と休憩所(小休息)
- ① 宮内庁3の丸尚蔵庫=皇室、宮内庁所蔵宝物を定期的に公開。
 - ② 企画展「皇室慶事の美」=残念ながら展示替えのため本日休館。
 - ③ 3の丸休憩所=トイレ、飲物、おみやげ(たべものはありません)
- 7) 下乗橋、大手3の門跡(石垣現存)
- ① 3の丸から2の丸へ。かつての水濠は消滅して裸の石垣だけが残る。
 - ② 天神濠、蛤濠跡、下乗橋跡=3の丸と2の丸の間の濠と木橋。大名は下乗橋までカゴで乗り入れ以後は徒歩。カゴかつぎは3の丸の従者待合所で待機。
 - ③ 大手3の門升形=高麗門、内枳形左折れ、渡櫓門。
 - ④ 同心番所(現存)=下乗橋前から移築。説明パネルの大名登城図はいい加減だがわかりやすい。棟瓦に葵紋、軒瓦に菊紋。歴史の変化が垣間見れる。同心は与力の下で警備などを担当した下級役人で、身分は御家人。
- 8) 銅門跡から本丸石垣(石垣現存)
- ① 銅門は大手3の門とセットで、2の丸御殿の正門。門扉の銅板張りが門名に。
 - ② 白鳥濠と本丸石垣=圧倒する本丸高石垣の迫力と白鳥濠。家光のとき水舞台を作る。
- 9) 汐見坂と梅林坂(現存)
- ① 本丸と2の丸を結ぶ坂道。汐見坂は坂から江戸湾が望めたことから、梅林坂は太田道灌時代からの梅林に由来、汐見坂は年寄りたちが息を切らし、梅林坂は大奥女中たちの通用門でもあった。
 - ② 梅林坂先に平河門、升形内に不浄門も併置、城内の犯罪者や死者などを搬出するための帶曲輪から殿中刃傷の浅野内匠頭や絵島生島事件の主犯・絵島が江戸城から追放された。

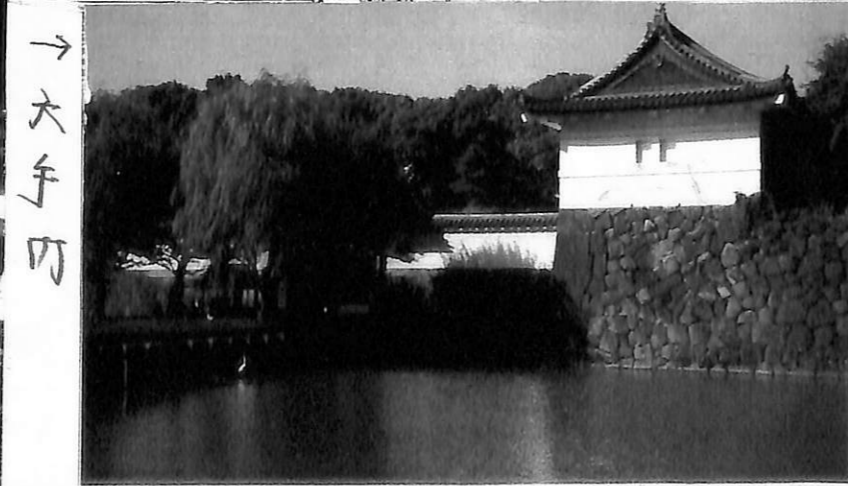


大手町

→3の丸セット



←従者待合所



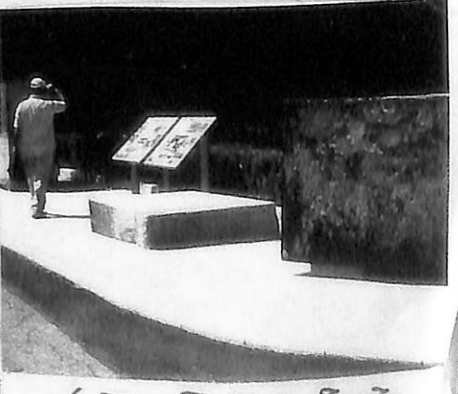
→大手町



↓大手3の門 ↑大手門 →



3の丸尚蔵庫 →



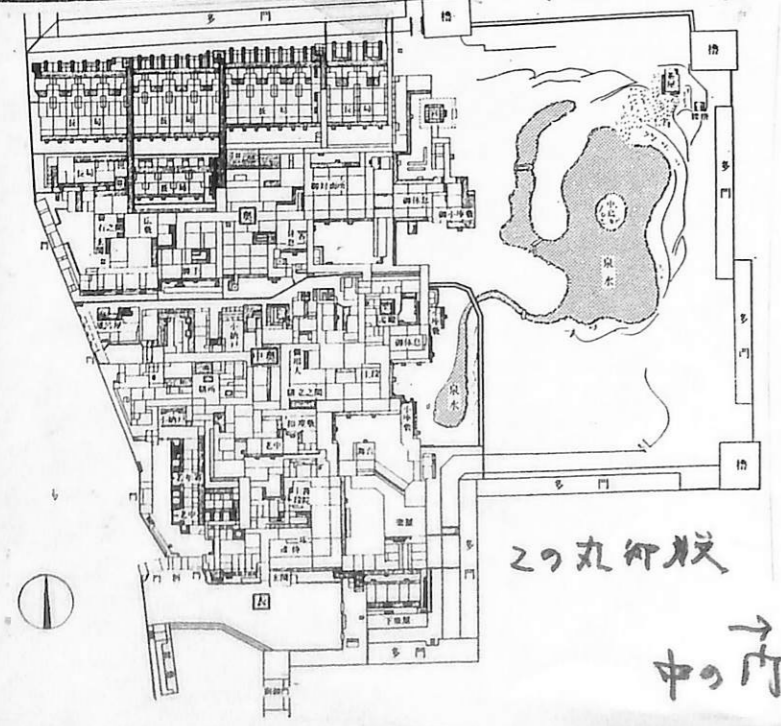
白石と黒石の展示

- 10) 2の丸御殿跡と2の丸庭園 (昼食=天候や御苑の都合で変更することがあります)
 - ① 将軍世子居城。ときに臨時本丸や別荘となったり、綱吉生母桂昌院、吉宗生母由利の方御殿にも。
 - ② 表御殿、奥御殿、庭園で構成、御殿はたび重なる火災焼失で6度建造された。最後の2の丸御殿は慶応元年再建、2年後の慶応3年に焼け、4か月後に江戸開城となった。
 - ③ 現在の庭園は2の丸全盛期の寛永時代を模して復元された。池泉周辺で自由昼食。
- 1-1) 百人番所 (現存)
 - ① 大手3の門の大番所。城内最大の警固ポイント。ここからは決められた人しか入れない。最後の人別改め所。長さ50mの変わった建物が寂しげだが、かつて周辺は石垣上に櫓、多間が立ち並んで登城者を威圧した。
 - ② 甲賀、根来、伊賀、二十五騎組の4組、各与力20、同心100人交代勤務。
- 1-2) 中の御門跡 (石垣現存) 大番所 (現存)
 - ① 石材の見本と解説=平成17年の解体修復で一部を展示
黒石=主に江戸はじめ伊豆半島東海岸早川などの石切り丁場で採石。
白石=江戸中期に香川県小豆島石切り丁場から。
 - ② 巨大な石垣は2の丸の間仕切り門。江戸城主要城門唯一の形式。大番所説明パネル写真参照。
 - ③ 巨石に注目。江戸城最大規模の石材。門下の石畳も当時のまま、柱穴搏(せん)も注目。切込みハギ=精密加工した石材を積み上げる。元和以降の石組方法。
- 1-3) 幕府金蔵跡 (遠望)
 - ① 何百万両ともいわれた幕府の大判、小判、金塊を保管。奥金蔵と2か所。



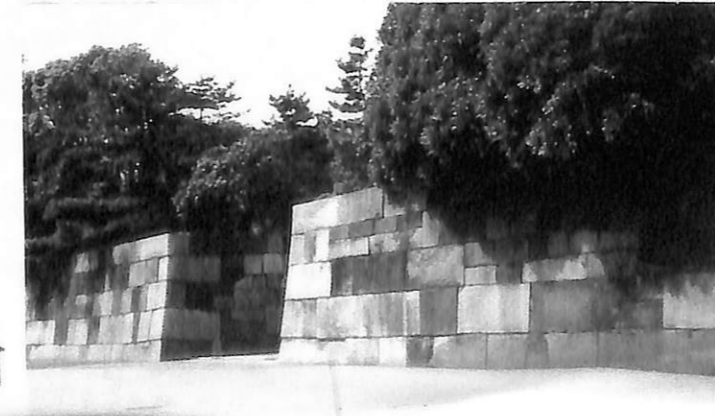
↑本丸石垣と白鳥漆

←百人番所

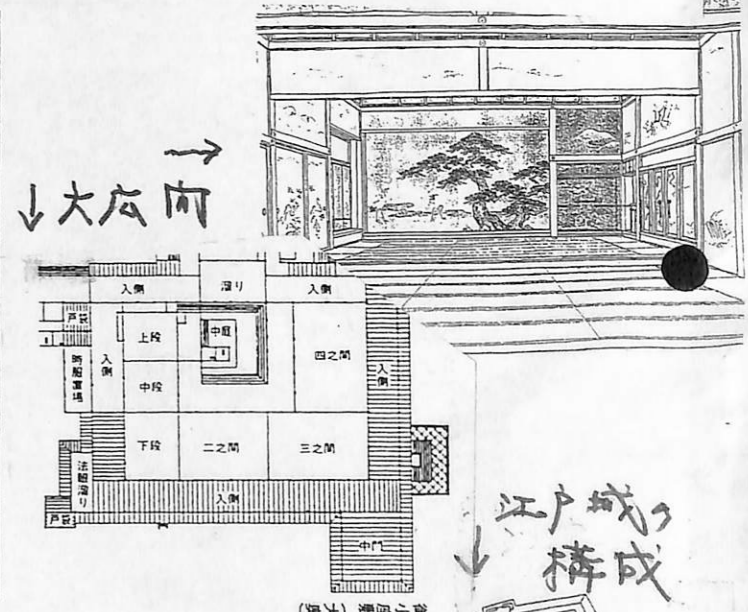


2の丸御殿

→中の門



- 江戸開城時はゼロ? 小栗上野介が持ち出したとする埋蔵金伝説が各地にある。
- ② 厳重な警固体制。破られることなどありえないはずの金蔵に盗賊が入る(奥金蔵説も)。江戸後期安政2年、2人組盗賊が未使用小判1万両を盗みだす。うち4千両城外、6千両は濠へ廃棄。犯人は2年後富山で捕縛、江戸で獄門ハリツケ。
- 1-4) 本丸石垣 (現存)
 - ① 高さおよそ30mの本丸石垣が続く。慶長9~12年の第1期工事で完成。一部積み直しあり。
 - ② 打ち込みハギ=あら加工した石材を積み上げ、隙間に小石を挟む。慶長~元和の石組方法野づら積み(参考)=加工しない石材を積み上げる。慶長以前の石組方法。江戸城にはない。
 - ③ 算木組=コーナー部分の石組方法。長方形の大石を縦横交互に積み上げる。
- 1-5) 書院前御門跡 (中雀御門) (石垣現存)
 - ① 登り坂にそって進むと江戸城最後の城門、本丸正門に出る。
 - ② 登石段、高麗門、内枳形右折れ、渡櫓門(19x4間)、御書院櫓(2重)、書院出櫓(2重)、続多間櫓。古写真が当時の威容を伝える。
 - ③ 火勢にあぶられ黒ずみ欠けた石垣。文久3年の本丸火災跡。
 - ④ 書院番士ら出迎えの中を大名たちは玄関へ進む。
- 1-6) 本丸殿舎跡、大広間跡
 - ① 目前の広い芝生公園は本丸跡。ここに表向き、中奥、大奥3万㎡、宏壮な本丸殿舎が連なった。
 - ② 本丸殿舎=江戸城の中心。初代家康から14代将軍家茂までの居城、以降西の丸へ。
総建坪 1万1千坪 中奥(将軍官邸) 2千坪
表向き(政庁) 3千坪 大奥(御台所、側室居所) 6千坪
 - ③ 玄関、遠侍、台所、大広間、白書院、黒書院、中奥、大奥などを廊下で結んだ。火災起きたら全焼。5回焼失、建造は7回、主要図面はほぼ現存。毎回踏襲し変化少ない。
 - ④ 弘化2年度造営経費170万両。最後の本丸御殿は文久3年焼失、予算なく再建できない。幕末5年間は西の丸仮本丸で代行。
 - ⑤ 大広間跡=本丸碑。上段の間、中段の間、下段の間。権威の演出舞台でもあった。
- 1-7) 富士見櫓 (一部現存材復元)
 - ① 明暦大火で天守閣焼失後の代理天守閣。歴代将軍はこの櫓に登って、富士山や江戸湾、両国の花火などを眺めた。
 - ② 江戸後期15櫓の1つ。最盛期は本丸だけで15、すべて30基もあった。
 - ③ 説明パネル写真は西の丸側櫓台一般参賀のコースから。みえない裏側は御三階櫓のようだ。
 - ④ 慶長11年、石垣は加藤清正構築。3重櫓。維新後も残ったが関東大震災で倒壊。



↓大広間

江戸城の構成

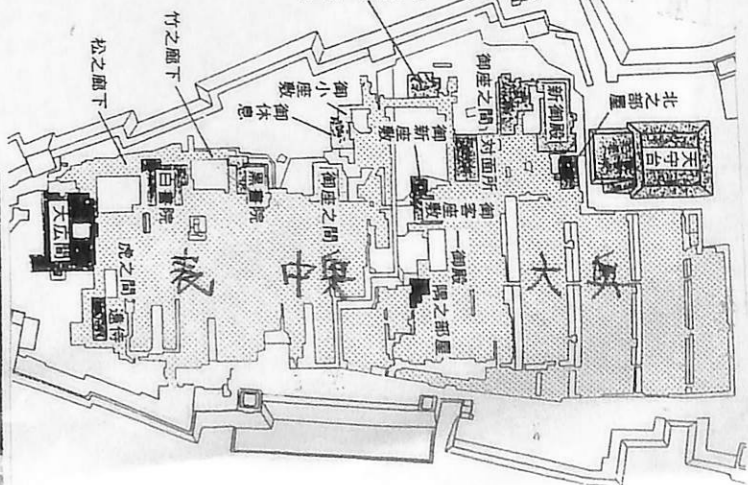


書院前内台早妻



↑本丸御殿跡

↓書院前門跡



18) 松の大廊下跡

- ① 元禄14年3月14日、浅野内匠頭が吉良上野介に刃傷した元禄赤穂浪士事件の発端の地。
- ② 大広間と白書院を結ぶ廊下。畳敷2間半巾、濡縁付き。内側は庭園、外側は三家溜の間など。襖に松の絵を描いて廊下の名前に。
- ③ 刃傷事件=合計4件。老中井上正就、大老堀田正俊、田沼意次の子意知、いずれも即死。浅野内匠頭だけが失敗、成功していれば義士の討入りもないことになる。

19) 富士見多聞(現存)石室(現存)

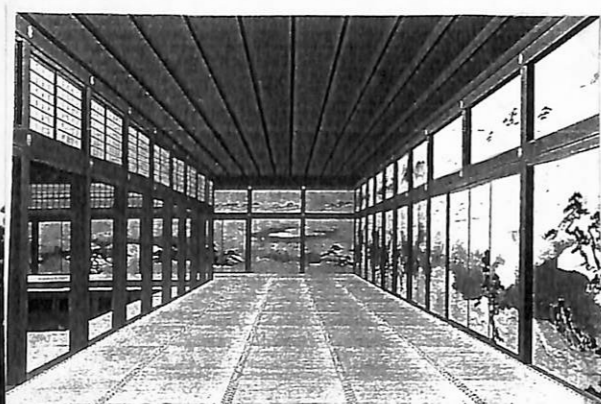
- ① 富士見多聞=年賀の一般参賀コースから見上げる多聞櫓の反対側。本丸には多聞櫓が連なった。多聞=内部を武器庫にした塀。緊急時は庫内から弓鉄砲を射かける。
- ② 石室=江戸城の抜穴ともいわれるが正しくは大奥の非常倉庫。このあたりに御台所の居室、御殿向けがあった。

20) 天守閣跡、天守台(現存)

- ① 江戸城のシンボル天守閣跡。慶長11年徳川家康の初代天守は豊臣秀吉の大坂城をしのいで、豊臣家に好意を寄せる諸大名に將軍家の権威をみせつけた。
- ② 江戸城3つの天守閣ともう1つの天守台(高さに諸説がある)
初代天守閣(慶長12年)家康(秀忠)=天守台20m、総高さ80m。日本最大の天守閣
2代〃(元和8年)秀忠=天守台13m、総高さ70m。本丸拡大で移築
3代〃(寛永15年)家光=天守台13m、総高さ64m。華麗に作り替え、明暦大火で焼失
4代天守台(明暦4年)家綱=天守台のみ、將軍後見・松平正之の反対で天守閣を建造せず。
5代天守台(享保年間)吉宗=天守台のみ、天守閣建造に至らず。現存
- ③ 最後の天守閣=5重6階、小天守。銅瓦葺き入母屋屋根シャチ、飾り破風多数
明暦元年の明暦大火で焼失、以降再建されることはなかった。
- ④ 現存天守台=白御影石高さ12.7m。はるばる瀬戸内海の小豆島から運ばれた白石。しかし自らの「享保の改革」路線に沿って天守閣建設を凍結した。

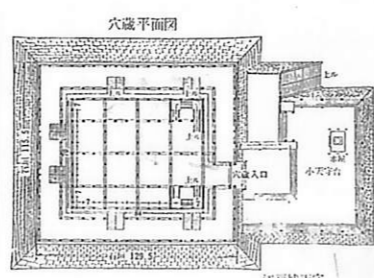
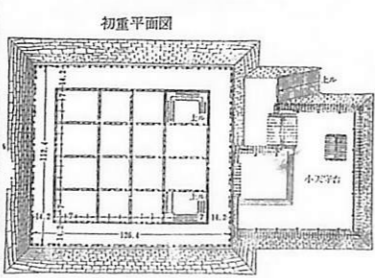
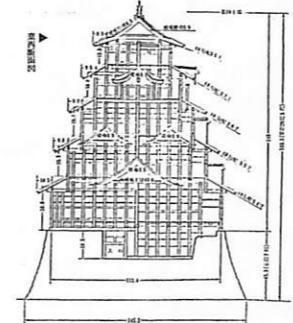
21) 大奥跡

- ① 江戸城をテーマとしたテレビ、映画にかかせない將軍家ハーレム。時に幕閣、諸大名を巻き込んだ後継争いが繰り替えされた。深慮策謀渦巻く女の戦いの舞台でもあった。
- ② 常時500人~2,000人。幕府経費の3分の2を消費。苦しい財政を圧迫した。
御殿向き=御台所(將軍正室)居室。上段の間、休息の間、切形の間などで生活。子女も。



↑刀松の大廊下

↓天守台



天守肉図面



↑富士見櫓

長局向き=側室と大奥女中居住。側室に定員、1のお部屋様、2のお部屋様……

広敷向き=大奥役人(ここだけは男)の執務所

お鈴廊下=將軍専用通路。総触れ、奥入り、文字どおり將軍以外男子禁制

- ③ 11代將軍家斉=大奥での豪華な生活を享楽、16人の側室に54人の子女を産ませた。

22) 本丸展望台など自由見学(集合時間厳守)

- ① 梅林坂、塩見坂
- ② 本丸休憩所、展望台から2の丸と丸の内方面を遠望

23) 北はね橋御門(一部現存材復元)周辺石垣(現存)

- ① 江戸城の守り最大の見どころ。高い石垣に深い濠底、思わず息を呑む迫力。堅固、壮大重厚、権力の象徴。担当者の刻印にも注目しよう。
- ② はね橋=高麗門に引き上げの滑車金具。通常は開かずの門、緊急時に橋を架けた。

24) 代官町通りで一応の解散

- ① 最寄り交通機関は右へおおよそ300m、東西線竹橋駅です。

以降有志だけで北の丸公園を「九段下駅」まで=天候や進行状況で中止することがあります

25) 旧近衛師団司令部庁舎(東京国立近代美術館工芸館=国重要文化財)

- ① 明治43年建造の国指定重要文化財。レンガ造り、2階建て、スレート屋根、ゴシック風
- ② 関東大震災や東京大空襲にもあわない。明治の代表的レンガ造り。

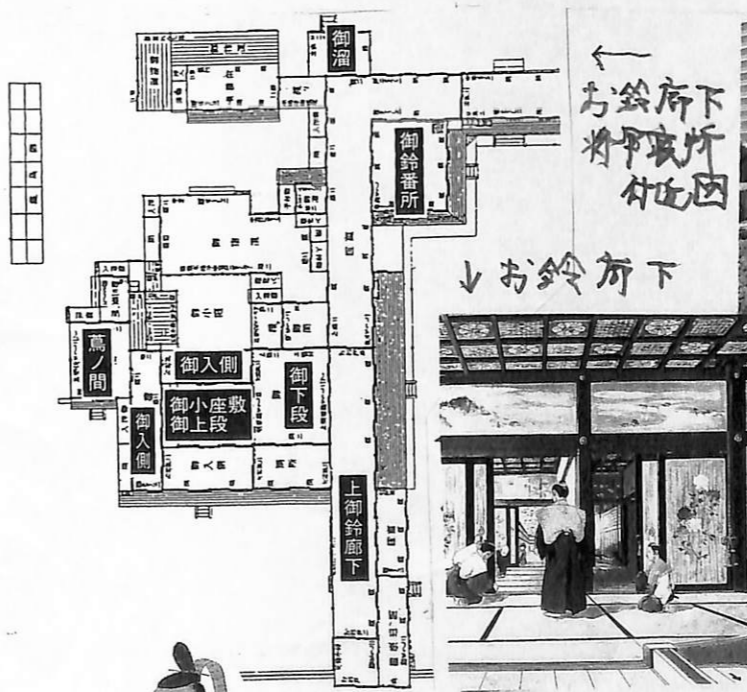
26) 北の丸公園と武道館

- ① 江戸時代の中城の一部で、徳川御三卿の田安、清水家御殿跡。三卿は將軍家の万一に備えた予備血統で、残る一橋家から11代將軍家斉と15代將軍慶喜が、明治維新後の16代には田安家から家達を迎えられた。
- ② 千鳥が淵側の土塁、石垣周辺を巡る。
- ③ 明治~昭和戦前は皇室と皇居を守る近衛師団兵營、戦後の昭和44年北の丸公園として一般開放。
- ④ 日本武道館=昭和39年東京オリンピック柔道会場として竣工。

27) 田安御門(国重要文化財)

- ① 清水御門とならぶ江戸城唯二の現存建造物。江戸はじめ寛永時代建造、明治4年渡櫓門を撤去したが保存されていた旧材で再建、扉鈎具に「寛永十三丙子曆九月吉日」を刻む。
- ② 普段立ち入ることのない升形裏側から江戸城門を検証する。

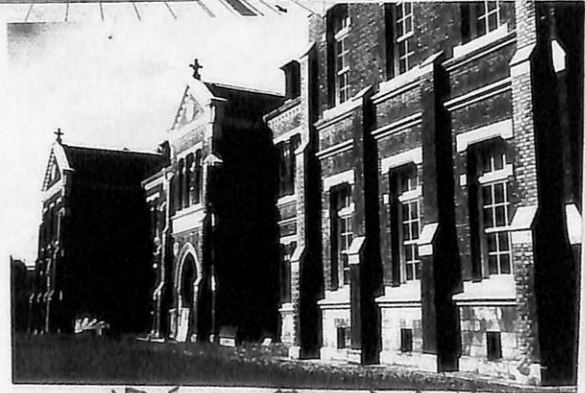
以上



北はね橋付近の守り



子女54人の子福將軍 11代家斉



旧近衛師団司令部



北の丸公園